

令和元年6月から令和2年5月に旅立たれたがん患者さんについての振り返り

この一年に逝去されたがん患者さんについてまとめ、お一人お一人を振り返りました。

私共が関った中で旅立たれた方は、38名でした。

在宅療養で過ごされる間、患者さん、ご家族の思いは様々であり、変化もします。私共はその都度、患者さん・ご家族の考えを伺い、それぞれのニーズに合わせて関わられるよう対応しています。

また最近の傾向として、化学療法、放射線療法などのがん治療を続けながら訪問診療も受けたいという依頼が増えており、このような場合は治療内容を確認し、患者さん・ご家族、治療病院の主治医に訪問診療の希望があれば介入しています。そして関わっているスタッフ間で細やかに連絡を取りながら、治療病院に必要な情報を的確に提供できるよう心がけています。

在宅で過ごされる患者さんは「なるべく自宅で過ごしたい」という思いをもっておられることが多いのですが、ご自宅で最後を迎えた方は昨年同様、約4割でした。入院した患者さんは、お宅の状況を鑑みて入院になった方々、病院での治療を希望される心情に配慮して入院になった方々です。このように在宅療養で過ごされるうち、種々の事情で入院が必要となる場合がありますので、予め緩和ケア面接を受けていただくなどして、いざという時の入院受け入れをしてくださる支援病院が決まった上で在宅診療に臨んでおります。

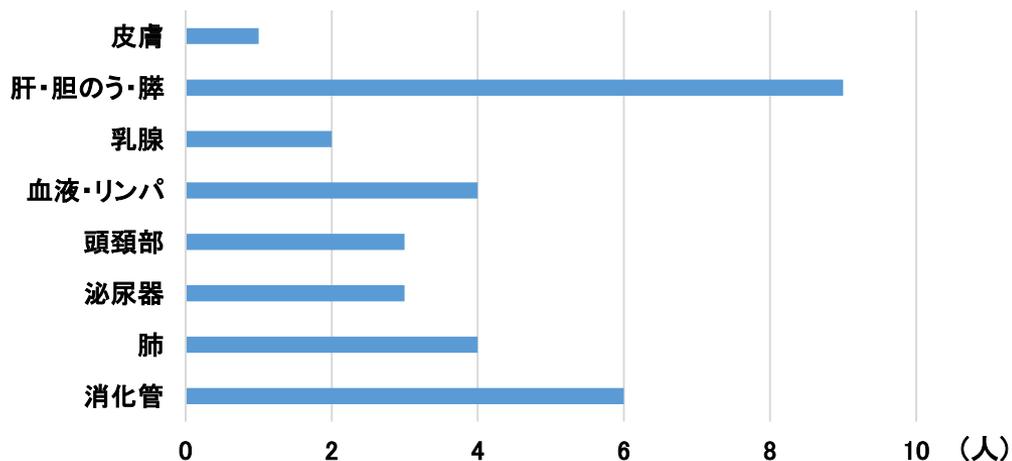
自宅で過ごせるかどうかを考える時、私共の医療技術の面で止むを得ず入院するしかないという事が無いよう、緩和ケア領域の治療・ケアについては日々研鑽を積み、ホスピス・緩和ケア病棟に遜色ないよう努めております。また、介護力も大切なキーファクターです。訪問看護ステーションなど各種事業所と連携し、提供できる医療サービス・介護サービスを検討しながら、日々、患者さん・ご家族の生活をフォローしています。

私共でお役に立てることがあればどうぞお声がけください。今後ともよろしく願い申し上げます。

令和2年6月

平和会ひさまつクリニック 診療部 田中 千恵

## 原発巣



ひさまつクリニックでは、  
様々ながんの患者さんをお受けしています。  
専門的な治療・ケアが必要な場合は、  
当該病院と連携し、  
どのようにしていくのが良いか  
相談しながら関わっています。

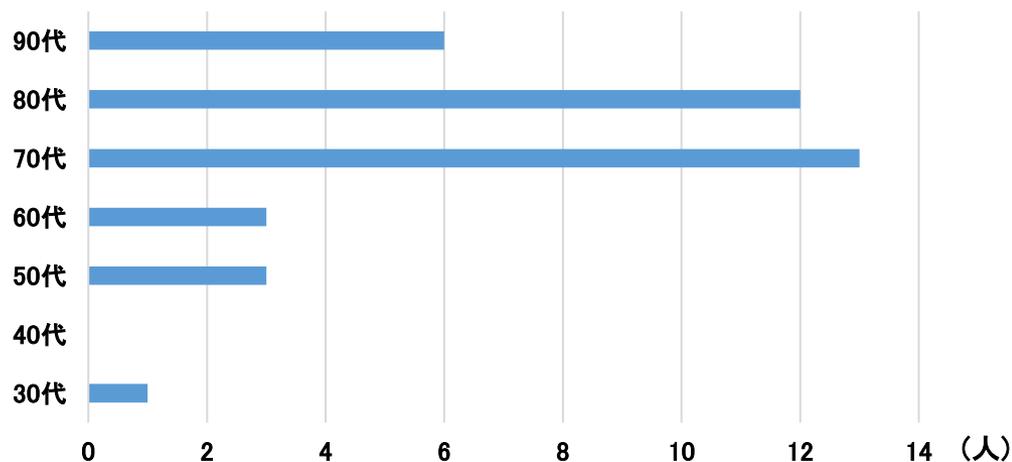
患者さんの年齢層も様々です。

診療に伺う地域については、  
鹿児島市内(旧喜入町、旧桜島町を除く)であれば  
実際伺うのにかかる時間を検討し、  
受け入れ可能かどうか判断しています。

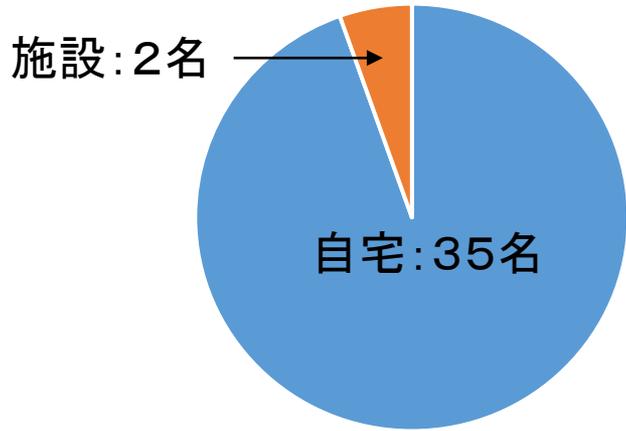
ご自宅、訪問診療介入可能な施設に伺います。

平和会訪問看護ステーションをはじめ、  
市内のいろいろな訪問看護ステーションと  
連携しています。

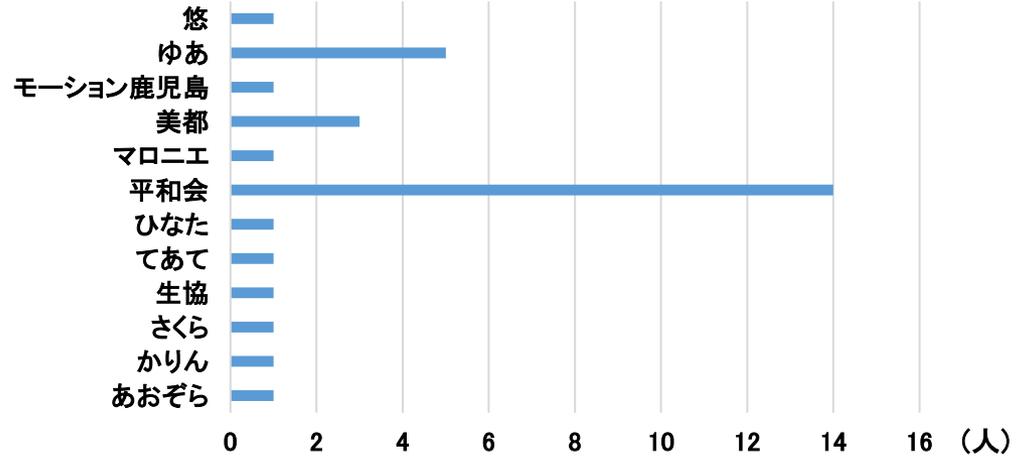
## 年齢



### 自宅/施設

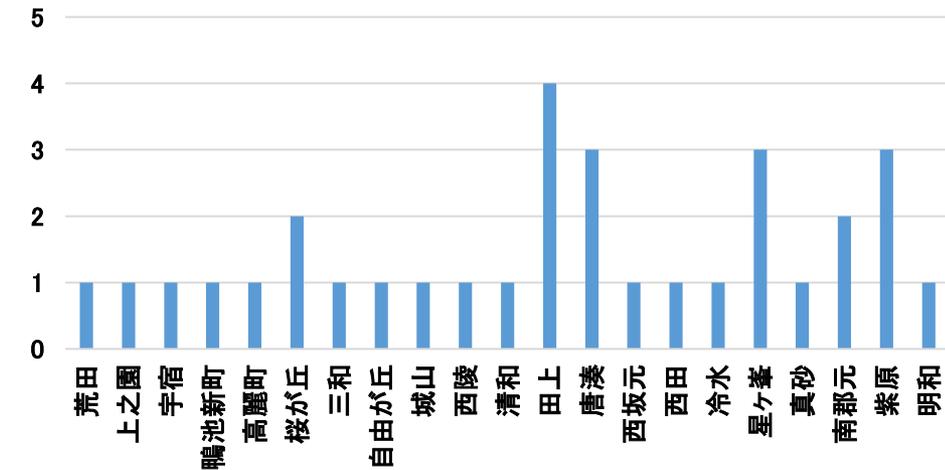


### 訪問看護ステーション

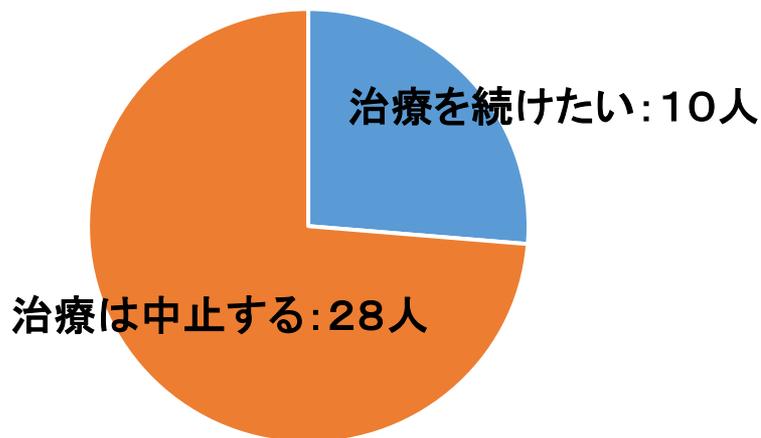


(人)

### 住所



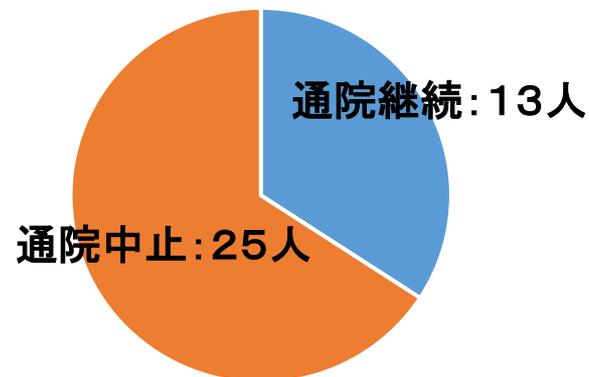
## 治療希望(化学療法、放射線療法など)



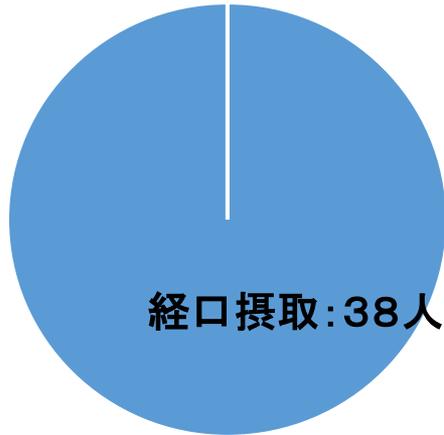
化学療法、放射線療法など  
抗がん治療を続けているが、  
体力低下により通院がむずかしくなり  
訪問診療を希望される方が増えています。  
治療内容が標準的がん治療であり、  
治療病院と連携が取れ  
必要時は入院できることを前提に、  
ご本人、ご家族、主治医の希望があれば  
訪問診療を行っています。

抗がん治療のため、  
あるいは治療病院の主治医による診察のため  
通院を続ける患者さんもおられます。  
訪問診療で伺った際のご様子など、  
治療病院に細やかに伝わるよう努めています。

## 外来受診 (治療の有無に関わらず希望により 通院)



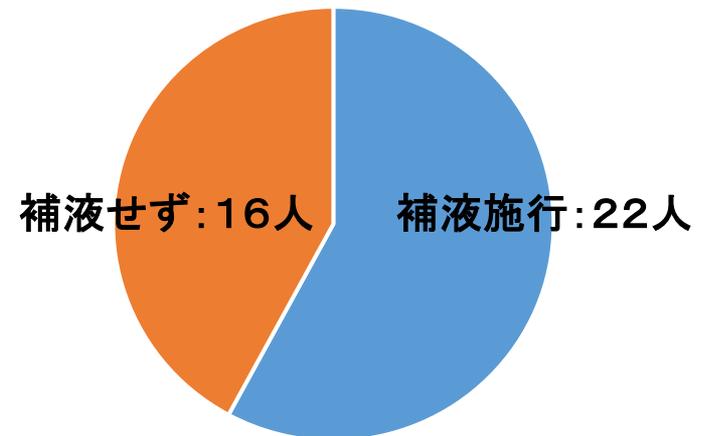
## 経口摂取



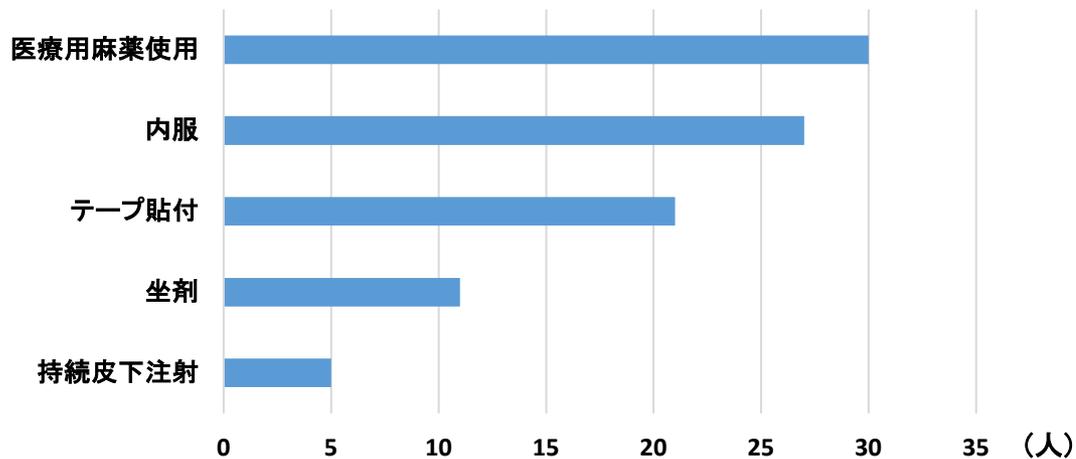
お食事については、  
患者さん、ご家族と相談しながら  
患者さんの状態に合わせた工夫をしながら  
対応しています。  
誤嚥のリスクがある方は、  
食事の形態に気を付けたり  
例えば口腔ケア用のブラシにお好きな飲み物を  
含ませて口の中をぬぐうといった工夫をします。

補液(点滴)をすればよりよく過ごせる、  
または患者さん、ご家族から点滴の希望がある場合、  
患者さんの状態に合わせたやり方、量で  
補液を行っています。

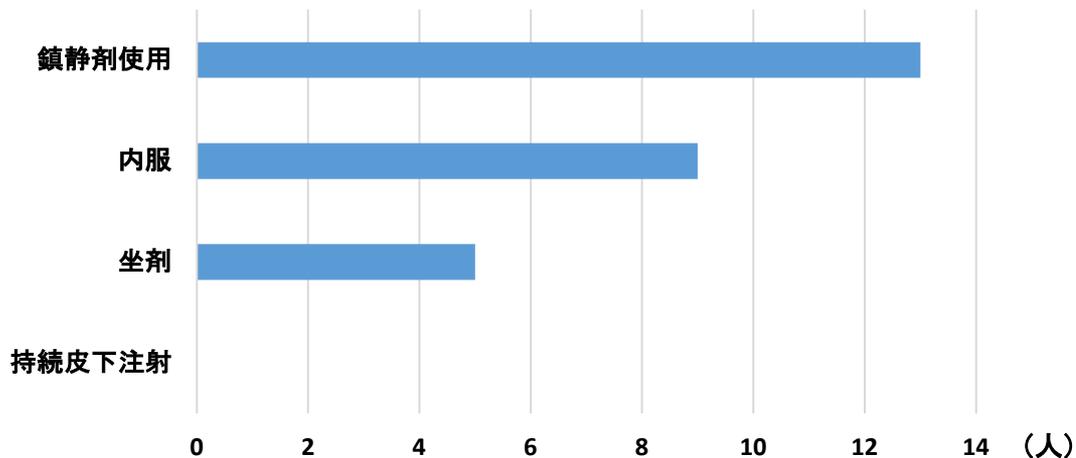
## 補液



## 医療用麻薬

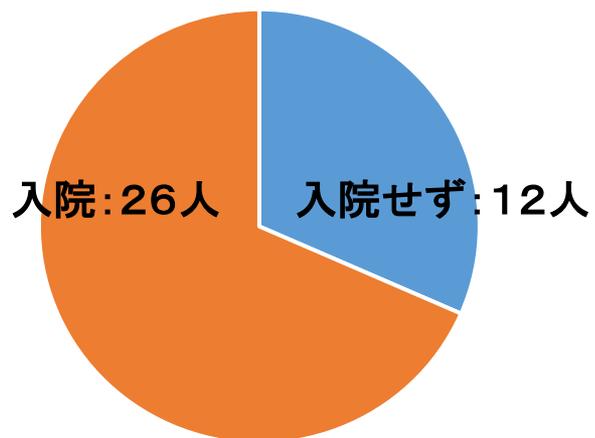


## 鎮静剤使用



なるべく  
痛みやきつさから解放され  
患者さんもご家族も  
落ち着いてご自宅で  
過ごせるよう、  
医療用麻薬を含めた  
症状緩和治療について  
研修、経験を積み  
緩和ケア病棟やホスピスに  
劣らない技術レベルを  
目指しています。

## 終末期に及ぶ入院



入院せず最後までご自宅で過ごしたいというご希望で  
当院でサポートを続け最後まで過ごされた方もおられます。  
場合によっては  
患者さん、ご家族が入院を希望されることがあります。  
よくお話を伺って相談をし、  
入院が望ましいと判断されれば  
支援病院と連携をとリスムーズに入院できるよう  
サポートします。

一旦入院された後、  
ご自宅に帰って最後を迎えた方もおられました。

治療やケアの内容、療養の場などについては  
ご本人、ご家族のお話を伺いながら、  
それぞれの価値観を尊重しつつ関われるよう  
努めています。

## 看取りの場

